

(行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

平成 28年 2月 2日

白石市議会議長 佐久間 儀郎 殿

議員氏名 大町 栄信

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成 28年 1月 18日 (月) ~ 1月 19日 (火)
調査・研修先	市町村職員中央研修(市町村アカデミー)会場
調査事項 (研修事項)	自治体経営の課題～
対応者・講師等	1. 伊藤俊行 2. 島田 晴雄 3. 人羅 格 4. 佐々木 信夫
概要	1. 伊藤俊行 氏
① 背景・目的	講演 「これからの政治の行方 ～ 2016年サミットと参院選の展望」
② 内容・特色	
③ 主な質疑	◎2016年の政治展望 (安倍政権)として前半は動きがにぶいと思われる
④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	○安倍政権の成果と課題として、 政治技術と正しい政策のバランスが悪い また 新人比率の高さと野党の動きがにぶい現況にあり、 国民の注目度が低い、政治不信ではなく投票不信になっている のではないだろうか。 サミットの成功と参院選の行方が左右するだろう。
	2. 島田晴雄 氏
	講演 「今後の日本経済の展望」
	今年スタート早々に株価が6日連続で低下する 今までで始めてである
	◎アベノミクス4年の評価は異次元金融緩和の成果とリスク、 積極財政の効果とリスク、成長戦略への期待
	◎新たな時代の可能性の実現として
	1)生かしていない資源と可能性
	2)異次元成長戦略の提案せよ
	○エネルギー(第4次産業革命)ITと産業革命



<p>○農業改革(コンパクトシティ、農地を企業などに貸す、多目的農業へ健康農業 福祉農業 教育農業 環境農業 観光農業 また減反の廃止、農協の改革を行う</p> <p>○働き方の改革 女性の活躍支援 医療改革</p> <p>○人口減少と地方創生、(最重要性)</p> <p>○市場の反応と評価、TPP参加と交渉の推進アベノミクスの本質と限界や新たな時代への可能性と期待すべし。</p>
<p>3、人羅格氏</p> <p>講演「地方創生と地方議会の役割」</p> <p>○地方版総合戦略については、議会と執行部が車の両輪となって推進することが重要であることから、各地方公共団体の議会においても、地方版総合戦略の策定段階や効果検証の段階において十分な審議が行われるようにすることが重要である 実際には地方議会がどう関与するかが必ずしも明らかでない。 せつかく作るのであるから議会による議論をし地方創生に生かしていくことである。</p> <p>○地方議会を取り巻く厳しい環境や住民の期待度のギャップなど、選挙の投票率の低下や無投票当選など、なり手不足や人材参入の停滞感など、また住民から活動が評価されてないこと</p> <p>○議会改革、政策条例の新しい動きが全国各地で出てきて政策制限の評価、議員提案の政策条例など議会の権限を直す動きが出てきている</p> <p>○情報公開と透明性を図る議会のオープン化など市民が見たくなる議会にする努力が必要であり政務活動費などへの理解も得られるものである。</p>
<p>4. 佐々木信夫氏</p> <p>講演「地方議会をどう変えるべきか～政治の役割～」</p> <p>○地方議会の本質は団体自治の観点から自治体全体の意思決定機関である また住民自治の観点から首長ら執行機関の監視統制、政策提案、民意集約期間である</p> <p>○議会の問題点～首長との関係 なぜ議会は与党、野党の意識を持って対応するのか、また政策、立法活動を首長のみ reliant のか オール与党化して監視機能を自ら機能不全にするのか。</p> <p>○地方議会の改革をしていかなければならない。</p>

議会改革から「政治改革（質的改革）」としての議会改革へシフト（自力改革）をしていく。

例として議会の自立性を高める議会自身のルール制定（議会基本条）
執行機関を交えない議員同士の討論機会の創出、議会主催の各地域
での市民への議会報告会 対話集会 まちづくり研究会
少子高齢対策会 地山地消研究会の創設など。

地方議会の活動を変えていくべきである